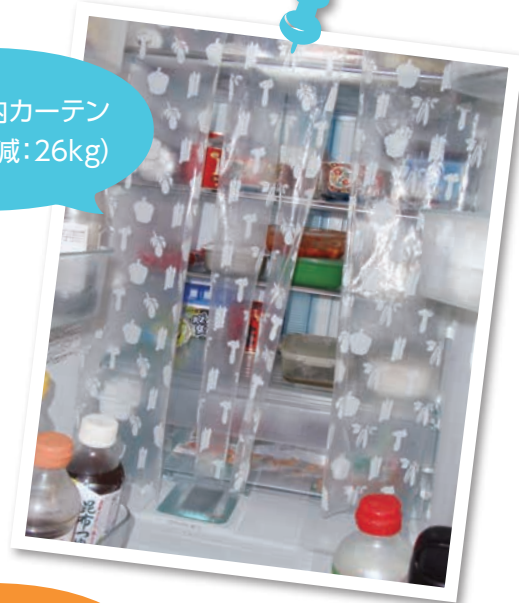


実際に実践されている例を紹介します

(年間CO₂削減量はうちエコ診断の結果から算定)



照明器具をLEDに変更
(年間CO₂削減:136kg)



冷蔵庫の庫内カーテン
(年間CO₂削減:26kg)



二重窓の設置
(年間CO₂削減:133kg)



窓にビニールフィルム
を貼り付け
(年間CO₂削減:32kg)

うちエコ診断とは？

「うちエコ診断」は、家庭部門からの温室効果ガス排出量削減対策・施策を進めるため、環境省事業として全国で実施しています。専門性を備えた「うちエコ診断員」が、専用ソフトを用いて受診者と対面でコミュニケーションを取りながら、各家庭の環境やライフスタイルに応じた省エネ対策の提案を行います。さらにCO₂削減対策にかかる機器の導入費用、また省エネにより節約される光熱費等を提示します。

埼玉県では、平成22年度は試行的に、その後県内で広く実施しており、本パンフレットで使用しているデータは、平成23年度、24年度の診断データのうち埼玉県内在住の方484件分を統計的に処理したものです。



認定特定非営利活動法人環境ネットワーク埼玉 / 埼玉県地球温暖化防止活動推進センター

〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和5-6-5 埼玉県浦和合同庁舎3階

TEL: 048-749-1217 FAX: 048-749-1218 E-Mail: info@kannet-sai.org

ホームページ <http://www.kannet-sai.org/>

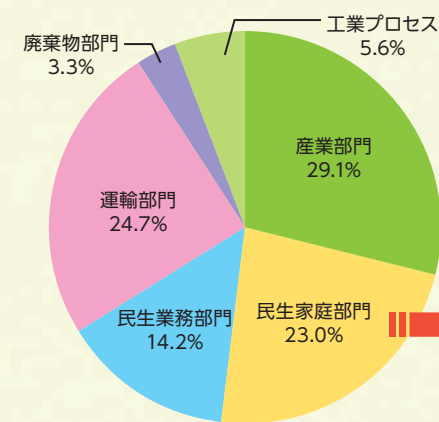
平成25年10月発行 このパンフレットは「平成25年度地域での地球温暖化防止活動基盤形成事業」で作成しました。

スマートライフ ～省エネのすすめ～

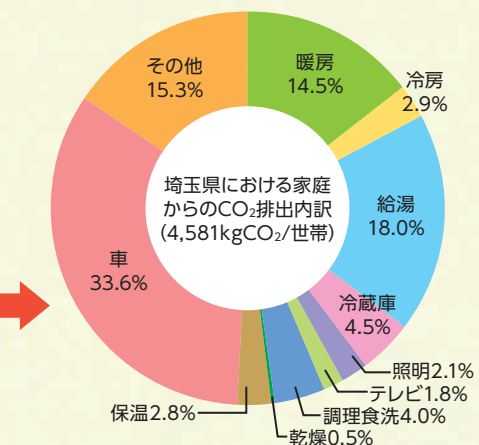
家庭の省エネ! どうしたら効果的な取組ができるのでしょうか
実際の取組を紹介しながら、
ムダなく無理なく、快適なエコライフを提案します!



2011年度埼玉県CO₂排出量構成比



埼玉県の家庭からのCO₂排出内訳



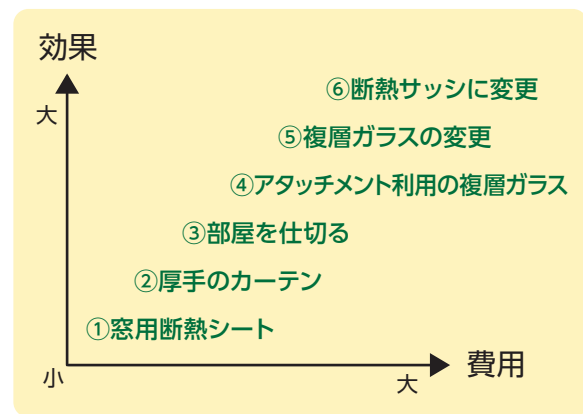
埼玉県では、家庭からの二酸化炭素(CO₂)の排出量が増え続けています(1990年比で約50%増)。特に暖房、給湯、自動車からの排出量が大きくなっています。まず冬の暖房や給湯の使用状況からチェックしてみましょう!

出典:埼玉県温室効果ガス排出量推計報告書より

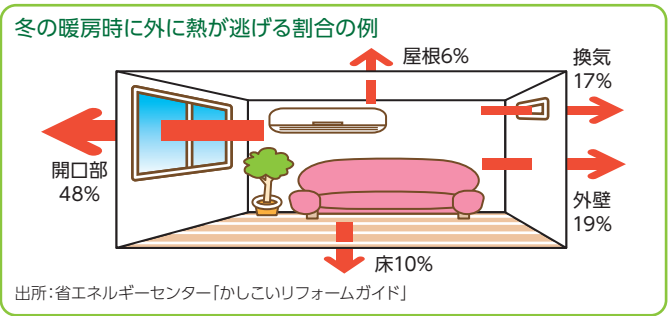
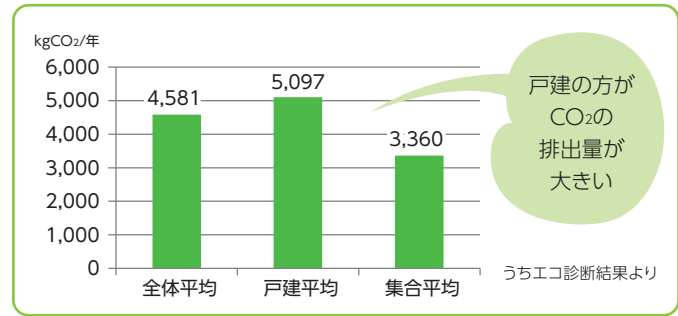
うちエコ診断結果より

ポイント1 戸建住宅の断熱

戸建住宅は、開口部の窓や外壁からの熱の出入りが大きいので、冷房や暖房の効きが悪くなってしまいます。冷暖房効果を高めるには、この開口部を工夫することがポイントです。費用がかからない対策方法から、費用はかかりますが効果の高い方法もあります。うちエコ診断の対策から取組を紹介します。

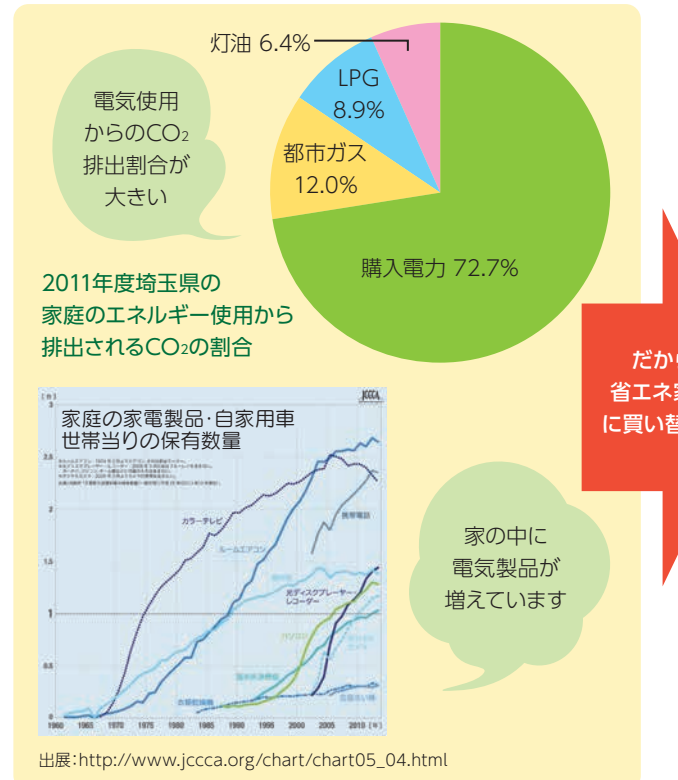


- ①窓用断熱シート(冬に効果的)
ホームセンター等で安価に販売しており、水などを使って窓に貼り付けることができます
- ②厚手のカーテンに替え、熱の逃げを防ぎます
- ③部屋を仕切る
部屋をカーテンやふすま等で仕切ることで冷暖房効果を上げます
- ④アタッチメント利用の複層ガラス化
既存のサッシにアタッチメントを付けて、複層ガラスに替えます
- ⑤二重窓
出窓などの内側に、さらに窓枠を追加し二つ窓にします
- ⑥断熱サッシ
サッシの材質を、熱伝導のよいアルミ等から樹脂や木製のものに取り替えます



ポイント2 家電の省エネ

各家庭では、カラーテレビやエアコンなどの家電製品がとて増えています。最近ではエネルギー消費効率のよい家電製品が販売されています。買い替える場合は、省エネ家電を選びましょう。

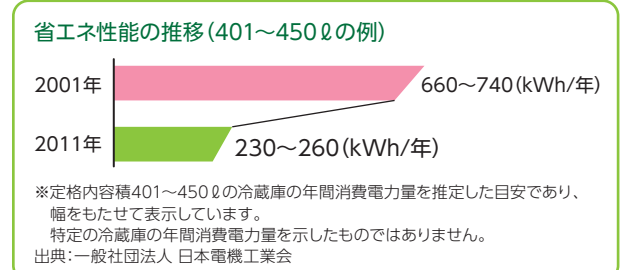


冷蔵庫の買い替え

24時間、1年中動いている冷蔵庫は、家の中でも多く電気を使います。ライフスタイルに合わせて容量や機能を選びましょう。また省エネ効率の高いものに買い替えると、家計にもお得です。

約-68% 今の冷蔵庫は、10年前と比べると約68%の省エネ

定格内容積401～450Lの10年前冷蔵庫と最新冷蔵庫の比較
一般財団法人家電製品協会「省エネ家電おすすめBOOK」より



ポイント3 暖房・給湯

家庭のCO₂排出量の約30%は、熱エネルギーからです。特に冬は、電気・ガス・灯油等を使って熱利用しますので、CO₂の排出量が高くなります。まず冬の暖房を見直してみましょう。

室内の快適性は温度以外に体感温度が重要!

暖かい空気は上に溜まります。扇風機で空気を攪拌しましょう

湿度が上がると体感温度が高くなります。加湿器を利用して適切な湿度(50~60%)に保つことで、暖房の効果が高まります。
※湿度が高くなりすぎると結露の原因となります。

湿度 ↑ 体感温度 ↑

加湿器

湿度が上がる → 体感温度が高くなる

加湿器を利用して適切な湿度(50~60%)に保つことで、暖房の効果が高まります。

※湿度が高くなりすぎると結露の原因となります。

寝る前は早めのオフ!

お出かけや寝る直前まで暖房を入れておくのはムダ! 15分ほど前にスイッチを切りましょう。

OFF!

カーテンは床に届くくらい長めにし、冷気をカット。

ホットカーペットやコタツの併用で足元は、ほっかほか。但し床に直に敷くと、熱が逃げてしまいます。断熱マットを敷くと省エネです。ホームセンターなどで安く買えます。

①カーペットのカバー
②電気カーペット
③下に断熱マットを敷く

冬は給湯からのエネルギー使用量が大きくなります。お風呂に入る場合もひと工夫!

どっちが省エネ?

×15分 12L×15分間=180L 浴槽およそ200L

1分間のシャワーのお湯は約12リットルです。シャワーは15分程度なら浴槽よりお湯の量が少なくなるので省エネ!

お風呂は、なるべく続けて入りましょう。時間があく場合は、保温ではなく追い炊きを!

節水シャワーヘッドへの交換

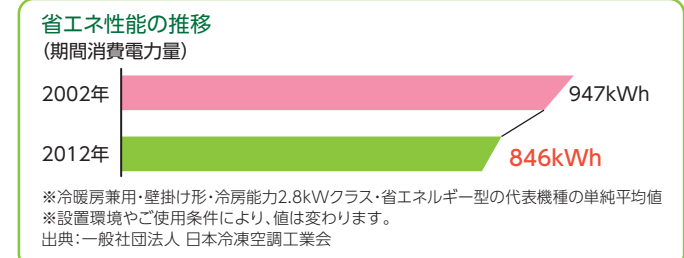
お湯は、水を電気やガスで沸かす時CO₂を発生します。また上下水処理でエネルギーが大量に使われCO₂が発生します。お湯の使う量を減らすこと、そして節水が省エネにつながります。

ポイント4 エアコンの買い替え

消費電力の大きいエアコンですが、最新型はヒートポンプ方式やインバーター技術の進歩により省エネ性能が高くなっています。そのためエアコンでの暖房が省エネでお得です。古いエアコンは省エネ効率の高いものに買い替えることで、さらにコストも削減できます。

約-11% 今どきのエアコンは10年前と比べると約11%の省エネ

2002年の2.8kWクラス機種と2012年の2.8kWクラス機種との比較
一般財団法人家電製品協会「省エネ家電おすすめBOOK」より



なぜエアコンは効率がいいの!

ヒートポンプのしくみ

①空気中の熱を集める

消費した電力1に対して約5倍の熱エネルギー

②大きな熱エネルギーとして利用

出典:一般社団法人 日本冷凍空調工業会

エアコンは、ヒートポンプ技術を利用しています。ヒートポンプは熱を温度の低いところから高いところへ移動させることができるので、消費した電力1に対して約3倍～5倍の熱エネルギーに変えることができます。電気ストーブと比較すると、とても効率のよい暖房機といえます。